

4. 北九州市と下関市との地域連携

加 来 和 典

I. 分析の視点

北九州市と下関市は、関門海峡に隔てられているとはいえ、最も近いところで600mほどしか離れていない。両市は歴史的にも経済的にも深いつながりを持っており、また、近年では行政面での連携が図られている。ここでは、両市の住民がこのような行政連携をどの程度認知しているのかを確認したい。さらに、日常生活の中で、相手の市をどんな目的でどの程度で訪れているのかを明らかにしたい。往来の実態のみでは住民レベルの連携を知るには足りないが、それぞれの住民が相手の市をどのように必要としているか、見方を変えれば、それぞれの市が近隣地域に対しどのような機能を果たしているのか（＝都市機能連携）を知る手がかりにはなると考える。

今回の調査対象地である長府地区と門司港地区は、正対してはいないが直線距離で4kmほどしか離れていない。JRを利用すれば、長府駅から北九州市の商業中心地にある小倉駅まで約30分、門司港駅から下関駅へは約15分である。また、門司港－下関市唐戸には連絡船が運航されており、海峡を渡るのに要する時間は5分である。さらに、両地区は、関門国道トンネル・関門橋といった自動車道へのアクセスもよい。このように近接する両地区の住民が両市の行政連携をどのように認知しているか、また、日頃の往き来はどのようなものであるのか。本稿では、紙幅の制約もあり、年齢と性別を中心とした分析を行なう。

II. 地域の関係が深まることへの期待

1. 地区

表1 下関地域と北九州地域の関係深化

	長 府		門司港	
	度数	有効%	度数	有効%
たいへん期待する	147	47.3	129	47.8
やや期待する	111	35.7	100	37.0
あまり期待しない	26	8.4	21	7.8
ほとんど期待しない	1	0.3	4	1.5
わからない	26	8.4	16	5.9
合 計	311	100.0	270	100.0

まず、行政面に限定せず、下関地域と北九州地域との関係の深まりを期待するかということ聞いてみた。

長府地区・門司港地区とも期待は高く、たいへん期待すると期待するをあわせると8割を超える。

それぞれの市で、居住地区に関わらず市民全体がこのような高い期待を抱いているのか否かは分からない。また、具体的にどのような事に期待するのかも今回の調査では追究できなかった。今後の調査課題としたい。

2. 年齢・性別

表2 下関地域と北九州地域の関係深化 と 年齢・性別の知表

	年 齢						合計	性 別		合計
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上		男性	女性	
たいへん期待する	14	23	36	72	70	61	276	129	147	276
	33.3%	42.6%	40.4%	46.5%	51.5%	58.7%	47.6%	47.8%	47.3%	47.5%
やや期待する	16	21	40	62	42	29	210	103	108	211
	38.1%	38.9%	44.9%	40.0%	30.9%	27.9%	36.2%	38.1%	34.7%	36.3%
あまり期待しない	7	7	8	12	9	4	47	15	32	47
	16.7%	13.0%	9.0%	7.7%	6.6%	3.8%	8.1%	5.6%	10.3%	8.1%
ほとんど期待しない	2	1	1	0	0	1	5	5	0	5
	4.8%	1.9%	1.1%	0.0%	0.0%	1.0%	0.9%	1.9%	0.0%	0.9%
わからない	3	2	4	9	15	9	42	18	24	42
	7.1%	3.7%	4.5%	5.8%	11.0%	8.7%	7.2%	6.7%	7.7%	7.2%
合 計	42	54	89	155	136	104	580	270	311	581
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

年齢別にはそれほどはっきりした違いは見られないが、20歳代では、相対的にやや期待感が低い。

性別にはほとんど差がない。

Ⅲ. 行政連携に関する住民の認知

1. 地区

本調査では、表3に示す北九州市と下関市の九つの行政連携に関して、認知度を聞いた。その結果、概して、これらの行政連携についての認知度は低いことが分かった。全体的に見て低い方から挙げて見ると、「一部事務組合による広域行政の推進構想」「関門地域行政連絡会議」「関門海峡観光推進協議会」「馬島への給水事業」などとなる。一方、最も認知度が高いのは「イベントや祭り情報などの広報誌への掲載」で、20%前後の人が、内容をある程度知っていると答えている。回答者には、市報を見ている人が比較的多いと推測される。これについて認知度が高いのは「関門景観条例」である。関門景観条例は平成13年に両市で同一題名、同一条文によって制定されたもので、運用のために関門景観協議会が下関市と北九州市によって設置されている。制定当時マスメディアでもよく取り上げられていた。また、両地区が海峡に面していることも認知度の高さに影響を与えていると思われる。

地区で比較すると、1項目を除き、長府住民の方が門司港住民よりも認知度が高い。門司港側が

唯一高いのは「市立施設の高齢者の相互利用」についてである。

表3 行政連携認知

		長 府		門司港	
		度数	有効%	度数	有効%
関門景観条例	内容ある程度知ってる	42	14.3	26	10.6
	聞いたことがある	157	53.6	107	43.5
	聞いたことがない	94	32.1	113	45.9
	合 計	293	100.0	246	100.0
イベントや祭り情報などの広報誌への掲載	内容ある程度知ってる	66	22.7	47	18.7
	聞いたことがある	156	53.6	122	48.4
	聞いたことがない	69	23.7	83	32.9
	合 計	291	100.0	252	100.0
市立図書館などの相互利用	内容ある程度知ってる	32	11.1	12	5.0
	聞いたことがある	60	20.9	46	19.3
	聞いたことがない	195	67.9	180	75.6
	合 計	287	100.0	238	100.0
市立施設の高齢者の相互利用	内容ある程度知ってる	16	5.6	23	9.4
	聞いたことがある	47	16.4	46	18.9
	聞いたことがない	224	78.0	175	71.7
	合 計	287	100.0	244	100.0
馬島への給水事業	内容ある程度知ってる	21	7.3	9	3.7
	聞いたことがある	71	24.6	45	18.5
	聞いたことがない	197	68.2	189	77.8
	合 計	289	100.0	243	100.0
関門連絡船への支援	内容ある程度知ってる	23	8.0	17	6.9
	聞いたことがある	112	38.9	94	38.4
	聞いたことがない	153	53.1	134	54.7
	合 計	288	100.0	245	100.0
関門海峡観光推進協議会	内容ある程度知ってる	16	5.5	12	4.9
	聞いたことがある	110	37.9	93	37.8
	聞いたことがない	164	56.6	141	57.3
	合 計	290	100.0	246	100.0
関門地域行政連絡会議	内容ある程度知ってる	9	3.1	7	2.9
	聞いたことがある	77	26.9	61	25.2
	聞いたことがない	200	69.9	174	71.9
	合 計	286	100.0	242	100.0
一部事務組合による広域行政の推進構想	内容ある程度知ってる	4	1.4	2	0.8
	聞いたことがある	33	11.6	30	12.4
	聞いたことがない	248	87.0	210	86.8
	合 計	285	100.0	242	100.0

2. 年齢

「内容がある程度知っている」の割合を見てみると、年齢で認知度に比較的差があるのは、「関門景観条例」と「市立施設の高齢者の相互利用」である。いずれも、60歳以上の層の認知度が相対的に高いが、特に後者では若年・中年層の認知度が極端に低い。

表4 関門景観条例 と 年齢・性別 の知表

	年 齢						合計	性 別		合計
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上		男性	女性	
内容ある程度知ってる	2	6	8	20	19	13	68	44	24	68
	5.0%	11.3%	9.1%	12.7%	16.0%	16.0%	12.6%	17.5%	8.4%	12.6%
聞いたことがある	14	25	41	86	61	36	263	132	132	264
	35.0%	47.2%	46.6%	54.8%	51.3%	44.4%	48.9%	52.4%	46.0%	49.0%
聞いたことがない	24	22	39	51	39	32	207	76	131	207
	60.0%	41.5%	44.3%	32.5%	32.8%	39.5%	38.5%	30.2%	45.6%	38.4%
合 計	40	53	88	157	119	81	538	252	287	539
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表5 イベントや祭り情報などの広報誌への掲載 と 年齢・性別 の知表

	年 齢						合計	性 別		合計
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上		男性	女性	
内容ある程度知ってる	11	8	19	26	26	23	113	62	51	113
	27.5%	15.4%	21.6%	16.6%	20.8%	28.8%	20.8%	24.6%	17.5%	20.8%
聞いたことがある	16	27	42	88	70	34	277	119	159	278
	40.0%	51.9%	47.7%	56.1%	56.0%	42.5%	51.1%	47.2%	54.6%	51.2%
聞いたことがない	13	17	27	43	29	23	152	71	81	152
	32.5%	32.7%	30.7%	27.4%	23.2%	28.8%	28.0%	28.2%	27.8%	28.0%
合 計	40	52	88	157	125	80	542	252	291	543
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表6 市立図書館などの相互利用 と 年齢・性別 の知表

	年 齢						合計	性 別		合計
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上		男性	女性	
内容ある程度知ってる	3	6	4	10	13	8	44	26	18	44
	7.5%	11.5%	4.5%	6.4%	11.7%	10.4%	8.4%	10.6%	6.4%	8.4%
聞いたことがある	8	10	11	32	25	20	106	54	52	106
	20.0%	19.2%	12.5%	20.5%	22.5%	26.0%	20.2%	22.0%	18.6%	20.2%
聞いたことがない	29	36	73	114	73	49	374	165	210	375
	72.5%	69.2%	83.0%	73.1%	65.8%	63.6%	71.4%	67.3%	75.0%	71.4%
合 計	40	52	88	156	111	77	524	245	280	525
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表7 市立施設の高齢者の相互利用 と 年齢・性別の知表

	年 齢						合計	性 別		合計
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上		男性	女性	
内容ある程度知ってる	1	3	2	4	20	9	39	24	15	39
	2.5%	5.8%	2.3%	2.6%	16.9%	11.7%	7.4%	9.7%	5.3%	7.3%
聞いたことがある	7	7	15	22	23	19	93	44	49	93
	17.5%	13.5%	17.0%	14.2%	19.5%	24.7%	17.5%	17.8%	17.3%	17.5%
聞いたことがない	32	42	71	129	75	49	398	179	220	399
	80.0%	80.8%	80.7%	83.2%	63.6%	63.6%	75.1%	72.5%	77.5%	75.1%
合 計	40	52	88	155	118	77	530	247	284	531
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 8 馬島への給水事業 と 年齢・性別の加減表

	年 齢						合計	性 別		合計
	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70歳以上		男性	女性	
内容ある程度知っ てる	1 2.5%	1 1.9%	5 5.7%	7 4.5%	9 7.6%	7 9.1%	30 5.6%	22 8.8%	8 2.8%	30 5.6%
聞いたことがある	6 15.0%	12 23.1%	12 13.6%	34 21.8%	29 24.6%	23 29.9%	116 21.8%	72 28.9%	44 15.5%	116 21.8%
聞いたことがない	33 82.5%	39 75.0%	71 80.7%	115 73.7%	80 67.8%	47 61.0%	385 72.5%	155 62.2%	231 81.6%	386 72.6%
合 計	40 100.0%	52 100.0%	88 100.0%	156 100.0%	118 100.0%	77 100.0%	531 100.0%	249 100.0%	283 100.0%	532 100.0%

表 9 関門連絡船への支援 と 年齢・性別の加減表

	年 齢						合計	性 別		合計
	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70歳以上		男性	女性	
内容ある程度知っ てる	2 5.0%	4 7.7%	4 4.5%	8 5.2%	11 9.2%	11 14.1%	40 7.5%	24 9.7%	16 5.6%	40 7.5%
聞いたことがある	16 40.0%	20 38.5%	34 38.6%	61 39.4%	45 37.8%	29 37.2%	205 38.5%	111 44.8%	95 33.3%	206 38.6%
聞いたことがない	22 55.0%	28 53.8%	50 56.8%	86 55.5%	63 52.9%	38 48.7%	287 53.9%	113 45.6%	174 61.1%	287 53.8%
合 計	40 100.0%	52 100.0%	88 100.0%	155 100.0%	119 100.0%	78 100.0%	532 100.0%	248 100.0%	285 100.0%	533 100.0%

表 10 関門海峡観光推進協議会 と 年齢・性別の加減表

	年 齢						合計	性 別		合計
	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70歳以上		男性	女性	
内容ある程度知っ てる	1 2.5%	2 3.8%	5 5.7%	5 3.2%	6 5.0%	9 11.3%	28 5.2%	13 5.2%	15 5.2%	28 5.2%
聞いたことがある	13 32.5%	21 40.4%	34 38.6%	61 39.1%	49 41.2%	25 31.3%	203 37.9%	107 43.1%	96 33.3%	203 37.9%
聞いたことがない	26 65.0%	29 55.8%	49 55.7%	90 57.7%	64 53.8%	46 57.5%	304 56.8%	128 51.6%	177 61.5%	305 56.9%
合 計	40 100.0%	52 100.0%	88 100.0%	156 100.0%	119 100.0%	80 100.0%	535 100.0%	248 100.0%	288 100.0%	536 100.0%

表 11 関門地域行政連絡会議 と 年齢・性別の加減表

	年 齢						合計	性 別		合計
	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70歳以上		男性	女性	
内容ある程度知っ てる	0 0.0%	1 1.9%	2 2.3%	4 2.6%	4 3.5%	5 6.5%	16 3.0%	7 2.9%	9 3.2%	16 3.0%
聞いたことがある	9 22.5%	10 19.2%	18 20.5%	43 27.7%	33 28.7%	24 31.2%	137 26.0%	80 32.7%	58 20.5%	138 26.1%
聞いたことがない	31 77.5%	41 78.8%	68 77.3%	108 69.7%	78 67.8%	48 62.3%	374 71.0%	158 64.5%	216 76.3%	374 70.8%
合 計	40 100.0%	52 100.0%	88 100.0%	155 100.0%	115 100.0%	77 100.0%	527 100.0%	245 100.0%	283 100.0%	528 100.0%

表 12 一部事務組合による広域行政の推進構想 と 年齢・性別の加入表

	年 齢						合計	性 別		合計
	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上		男性	女性	
内容ある程度知っ てる	1 2.5%	1 1.9%	2 2.3%	0 0.0%	1 0.9%	1 1.3%	6 1.1%	3 1.2%	3 1.1%	6 1.1%
聞いたことがある	2 5.0%	3 5.8%	6 6.8%	22 14.2%	11 9.6%	18 23.7%	62 11.8%	36 14.7%	27 9.6%	63 12.0%
聞いたことがない	37 92.5%	48 92.3%	80 90.9%	133 85.8%	103 89.6%	57 75.0%	458 87.1%	206 84.1%	252 89.4%	458 86.9%
合 計	40 100.0%	52 100.0%	88 100.0%	155 100.0%	115 100.0%	76 100.0%	526 100.0%	245 100.0%	282 100.0%	527 100.0%

3. 性別

性別で認知度の差があるものは、「関門景観条例」と「馬島への給水事業」「関門連絡船への支援」「関門地域行政連絡会議」で、いずれも男性の方が女性よりも認知度が高い。とはいえ、男性でも「内容がある程度知っている」人はどの項目でも1割に満たないのが実情である（「関門景観条例」を除く）。

4. 行政連携認知と社会関係・団体参加

行政連携認知と社会関係や団体参加の関連を探ってみよう。

行政に関する情報は様々なルートから入ってくる。テレビや新聞といったマスメディア、市の広報誌などは情報の重要な入手経路である。一方、口コミの重要性も無視できない。

ここでは、個人がより豊富な社会関係をもつほど、多くの行政情報を得られると仮定した。また、団体参加についても、その数が多ければ、同様の効果があると仮定できる。ここでは、行政連携認知スコアと親しい人の合計数、団体参加数の相関を調べてみる。行政連携認知スコアは、九つの項目に関して、それぞれ、「内容がある程度知っている」に3点、「聞いたことがある」に2点、「聞いたことがない」に1点を与え、合計したものである。得点が高いほど行政連携の認知度が高い。

表 13 相関係数

		親しい人の 合計人数	団体参加数	行政連携 認知スコア
親しい人の 合計人数	Pearson の相関係数	1	.188(**)	0.071
	有意確率 (両側)		0.000	0.123
	N	555	535	479
団体参加数	Pearson の相関係数	.188(**)	1	.218(**)
	有意確率 (両側)	0.000		0.000
	N	535	573	486
行政連携 認知スコア	Pearson の相関係数	0.071	.218(**)	1
	有意確率 (両側)	0.123	0.000	
	N	479	486	508

**、相関係数は1%水準で有意 (両側)。

表 13 によれば、親しい人の合計数は行政連携認知スコアと無相関である。団体参加数は、相関係数 0.218、1%水準で有意である。

これらから、インフォーマルな関係を中心としている社会関係量の多寡は行政情報の取得に影響が無く、団体参加では参加数が多くなるほど情報量が増加する傾向があることが窺える。インフォーマルな関係と団体参加とでは、流れている情報の内容が異なると想像される。

特にどのような団体参加が行政情報の流通経路となっているかについてはさらに詳細な分析が必要であるが、別稿にゆずりたい。

IV. 海峡を越えた住民の往き来

1. 地区

表 14 長府から北九州市訪問回数合計(この1か月)

	度数	有効%	累積%
0回	133	42.8	42.8
1回	56	18.0	60.8
2回	48	15.4	76.2
3回	24	7.7	83.9
4回	13	4.2	88.1
5回以上	37	11.9	100.0
合計	311	100.0	

表 15 門司港から下関市訪問回数合計(この1か月)

	度数	有効%	累積%
0回	111	41.4	41.4
1回	56	20.9	62.3
2回	37	13.8	76.1
3回	19	7.1	83.2
4回	14	5.2	88.4
5回以上	31	11.6	100.0
合計	268	100.0	

注) 行った目的は分かるが回数は不明という回答者がいるため、「訪問目的」の「一回も行っていない」とこの表の「0回」の度数は一致しない。

長府地区・門司港地区の住民は日常的にどの程度相手の市を訪問しているのだろうか。本調査では、調査直前の1か月の訪問について、訪問の主な目的ごとにその回数を聞いた。

まず、地区ごとの回数と目的を見ておこう。

長府地区では、0回が最も多く42.8%を占める。ついで、1回18.0%、2回15.4%などとなっている。平均週に1回以上北九州市に行くという人(4回と5回以上の合計)は16.1%である。

門司港地区では、0回が最も多く41.4%を占める。ついで、1回20.9%、2回13.8%などとなっている。平均週に1回以上下関市に行くという人は16.8%である。

やや意外な結果となった。都市規模の違いから想像すると、下関市から北九州市への流出超過が予想されたが、本調査に限って言えば、ほぼ同量の往き来がなされていることが示された。

では、訪問の目的に違いはあるだろうか。表16・17は、回数は考慮せずに、どのような用事で訪問したかを集計したものである。例えば、買い物で5回訪問した人も1回のみ訪問した人も、ともにここでは「買い物で」=1とカウントされている。

表によれば、両地区とも訪問目的はよく似ている。もっとも多いのは「買い物で」という人で、長府で32.6%、門司港で34.9%となっている(応答者数に対するパーセンテージ。以下同)。両地

表 16 長府から北九州市訪問目的（この1か月）

	応答数		ケース の%
	N	%	
仕事で	31	7.5%	9.9%
通学で	3	0.7%	1.0%
買い物で	102	24.8%	32.6%
通院で	4	1.0%	1.3%
娯楽で	58	14.1%	18.5%
観光で	34	8.3%	10.9%
趣味や習い事で	12	2.9%	3.8%
親戚や知人宅訪問	24	5.8%	7.7%
その他で	11	2.7%	3.5%
一回も行っていない	132	32.1%	42.2%
合計	411	100.0%	131.3%

表 17 門司港から下関市訪問目的（この1か月）

	応答数		ケース の%
	N	%	
仕事で	23	6.7%	8.6%
通学で	0	0.0%	0.0%
買い物で	94	27.6%	34.9%
通院で	5	1.5%	1.9%
娯楽で	17	5.0%	6.3%
観光で	35	10.3%	13.0%
趣味や習い事で	9	2.6%	3.3%
親戚や知人宅訪問	27	7.9%	10.0%
その他で	20	5.9%	7.4%
一回も行っていない	111	32.6%	41.3%
合計	341	100.0%	126.8%

区で違いがあるのは「娯楽（映画・遊園地・宴会など）」という目的で、長府からは18.5%と2番目に多い訪問目的となっているのに対して、門司港からは6.3%と低い。これとは逆に門司港の方が長府よりも割合が高いのは、「その他で」（門司港7.4%、長府3.5%）「親戚や知人宅訪問」（門司港10.0%、長府7.7%）「観光で」（門司港13.0%、長府10.9%）などである。先に見たように両地区の訪問回数にさほど差はないものの、その内容は若干異なるようである。相互に買い物が主たる訪問目的であるが、北九州市の娯楽機能は下関市のそれに比べ吸引力が強い。

2. 年齢

年齢別の訪問回数を見てみる。

長府から北九州市への訪問回数は、60歳以上の高齢層で減る傾向が見て取れる（表18）。これらの年齢層では0回が過半数となる。一方で、門司港を見てみると、そのようなはっきりした減少傾向は見られない（表19）。たしかに、40歳以上になると「2回」が減少し、「1回」が増加するのであるが、「0回」が年齢上昇に伴って単調に増加するということはない。両地区のこのような差異は、訪問の目的に原因があると思われる。次にそれを検討しよう。

年齢別の訪問目的を見てみると、長府では「買い物で」に年齢差が大きいことが分かる（表20）。20歳代で42.9%、30歳代で61.5%とピークに達し、あとは年齢上昇とともに減少していく。「娯楽で」も似た傾向を示す。つまり、20歳代23.8%→30歳代26.9%→40歳代34.7%とピークに達し、あとは急減していく。この二つの訪問目的について、今度は門司港から下関市への訪問を見るとその動き方はかなり異なることが分かる。いちいち数値は挙げないが、要約すれば、門司港では年齢上昇による変化はそれほどないということである（表21）。これらから、おなじ「買い物」と言ってもその性格がかなり異なることが示唆される。北九州市が若者を中心に吸引しているのに対して、下関市にはそのような層化された吸引力はないようである。

門司港側の下関市訪問目的で目に付くのは、高齢層の「観光で」という目的の多さである。60歳代25.5%、70歳代15.8%となっている。下関市の観光の訴求力がとりわけ高齢層に強いことが示唆される。

表 18 長府から北九州市訪問回数（この1か月）と年齢・性別の加減表

	年 齢						合計	性 別		合計
	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70歳以上		男性	女性	
0 回	7 33.3%	7 26.9%	14 28.6%	39 43.3%	43 54.4%	23 51.1%	133 42.9%	64 43.2%	69 42.3%	133 42.8%
1 回	4 19.0%	2 7.7%	14 28.6%	13 14.4%	12 15.2%	10 22.2%	55 17.7%	23 15.5%	33 20.2%	56 18.0%
2 回	4 19.0%	6 23.1%	9 18.4%	14 15.6%	8 10.1%	7 15.6%	48 15.5%	20 13.5%	28 17.2%	48 15.4%
3 回	1 4.8%	4 15.4%	5 10.2%	8 8.9%	6 7.6%	0 0.0%	24 7.7%	12 8.1%	12 7.4%	24 7.7%
4 回	1 4.8%	2 7.7%	1 2.0%	6 6.7%	1 1.3%	2 4.4%	13 4.2%	7 4.7%	6 3.7%	13 4.2%
5 回以上	4 19.0%	5 19.2%	6 12.2%	10 11.1%	9 11.4%	3 6.7%	37 11.9%	22 14.9%	15 9.2%	37 11.9%
合 計	21 100.0%	26 100.0%	49 100.0%	90 100.0%	79 100.0%	45 100.0%	310 100.0%	148 100.0%	163 100.0%	311 100.0%

表 19 門司港から下関市訪問回数（この1か月）と年齢・性別の加減表

	年 齢						合計	性 別		合計
	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70歳以上		男性	女性	
0 回	10 47.6%	9 33.3%	18 43.9%	31 45.6%	20 36.4%	23 41.1%	111 41.4%	46 38.3%	65 43.9%	111 41.4%
1 回	1 4.8%	4 14.8%	8 19.5%	15 22.1%	11 20.0%	17 30.4%	56 20.9%	24 20.0%	32 21.6%	56 20.9%
2 回	3 14.3%	7 25.9%	6 14.6%	6 8.8%	9 16.4%	6 10.7%	37 13.8%	15 12.5%	22 14.9%	37 13.8%
3 回	1 4.8%	3 11.1%	3 7.3%	5 7.4%	3 5.5%	4 7.1%	19 7.1%	10 8.3%	9 6.1%	19 7.1%
4 回	0 0.0%	3 11.1%	1 2.4%	4 5.9%	3 5.5%	3 5.4%	14 5.2%	7 5.8%	7 4.7%	14 5.2%
5 回以上	6 28.6%	1 3.7%	5 12.2%	7 10.3%	9 16.4%	3 5.4%	31 11.6%	18 15.0%	13 8.8%	31 11.6%
合 計	21 100.0%	27 100.0%	41 100.0%	68 100.0%	55 100.0%	56 100.0%	268 100.0%	120 100.0%	148 100.0%	268 100.0%

3. 性別

両地区とも、男女で訪問回数にそれほど違いは見られない。ただ、5回以上では両地区とも男性が若干多い。これは、表 20・21 によれば、仕事での訪問に男女差があることによると思われる。

仕事以外の訪問目的を見ておく。長府では、「買い物で」に女性 36.8%、男性 28.0%と差がある。門司港では、「観光で」に男性 17.4%、女性 9.5%と少し差がある。

表 20 長府から北九州市訪問目的（この1か月）と 年齢・性別の加表

	年 齢						合計	性 別		合計
	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上		男性	女性	
仕事で	2	4	6	11	2	6	31	24	7	31
	9.5%	15.4%	12.2%	12.2%	2.5%	12.8%		16.0%	4.3%	
通学で	2	1	0	0	0	0	3	2	1	3
	9.5%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		1.3%	0.6%	
買い物で	9	16	18	30	21	7	101	42	60	102
	42.9%	61.5%	36.7%	33.3%	26.6%	14.9%		28.0%	36.8%	
通院で	0	0	0	3	0	1	4	3	1	4
	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	2.1%		2.0%	0.6%	
娯楽で	5	7	17	19	7	3	58	30	28	58
	23.8%	26.9%	34.7%	21.1%	8.9%	6.4%		20.0%	17.2%	
観光で	0	2	4	8	14	6	34	14	20	34
	0.0%	7.7%	8.2%	8.9%	17.7%	12.8%		9.3%	12.3%	
趣味や習い事で	0	1	0	2	6	3	12	7	5	12
	0.0%	3.8%	0.0%	2.2%	7.6%	6.4%		4.7%	3.1%	
親戚や知人宅訪問	1	2	2	5	5	9	24	12	12	24
	4.8%	7.7%	4.1%	5.6%	6.3%	19.1%		8.0%	7.4%	
その他で	3	0	1	5	1	1	11	5	6	11
	14.3%	0.0%	2.0%	5.6%	1.3%	2.1%		3.3%	3.7%	
一回も行っていない	7	7	14	39	43	22	132	63	69	132
	33.3%	26.9%	28.6%	43.3%	54.4%	46.8%		42.0%	42.3%	
合 計	21	26	49	90	79	47	312	150	163	313

パーセンテージと合計は応答者数を基に計算。

表 21 門司港から下関市訪問目的（この1か月）と 年齢・性別の加表

	年 齢						合計	性 別		合計
	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上		男性	女性	
仕事で	1	3	4	9	4	2	23	16	7	23
	4.8%	11.1%	9.8%	13.2%	7.3%	3.5%		13.2%	4.7%	
買い物で	9	7	17	15	23	23	94	42	52	94
	42.9%	25.9%	41.5%	22.1%	41.8%	40.4%		34.7%	35.1%	
通院で	0	0	0	2	1	2	5	2	3	5
	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	1.8%	3.5%		1.7%	2.0%	
娯楽で	1	5	3	4	2	2	17	9	8	17
	4.8%	18.5%	7.3%	5.9%	3.6%	3.5%		7.4%	5.4%	
観光で	1	2	0	9	14	9	35	21	14	35
	4.8%	7.4%	0.0%	13.2%	25.5%	15.8%		17.4%	9.5%	
趣味や習い事で	3	1	2	0	2	1	9	4	5	9
	14.3%	3.7%	4.9%	0.0%	3.6%	1.8%		3.3%	3.4%	
親戚や知人宅訪問	4	3	3	4	5	8	27	11	16	27
	19.0%	11.1%	7.3%	5.9%	9.1%	14.0%		9.1%	10.8%	
その他で	1	3	2	8	4	2	20	11	9	20
	4.8%	11.1%	4.9%	11.8%	7.3%	3.5%		9.1%	6.1%	
一回も行っていない	10	9	18	31	20	23	111	46	65	111
	47.6%	33.3%	43.9%	45.6%	36.4%	40.4%		38.0%	43.9%	
合 計	21	27	41	68	55	57	269	121	148	269

パーセンテージと合計は応答者数を基に計算。

V. まとめ

長府・門司港両地区のそれぞれの回答者の半数以上が、1か月に1回以上相手市を訪れていたことが分かった。回数を考慮しなければ、仕事による訪問者が長府で9.9%、門司港で8.6%にとどまり、住民の生活構造から見た両市の結びつきは、買い物や娯楽、観光といった消費次元・文化次元で深いことが示唆された。

回答者の大半が北九州・下関両地域の関係が深まることを期待しながらも、市行政の連携に関する認知度はかなり低かった。行政連携と言っても生活レベルで見えやすいものとそうでないものがあり、認知度の低さを一概に問題にすることはできない。とはいえ、「市立図書館などの相互利用」や「市立施設の高齢者の相互利用」などもっと知られてよいものもある。今後の広報活動に期待したい。

参考

関門景観協議会ホームページ <http://www.kanmon-keikan.com/html/main.html>

国土交通省九州地方整備局関門航路事務所ホームページ <http://www.kanmon-waterway.go.jp/>